

経済建設委員会 都市事例調査報告

■下川町・清里町の農産加工の 取り組み

下川町は、持続可能な地域社会の構築を目指し、産業クラスターの先進地として外部の優秀な人材を受け入れ、その手法はトマト生産への新規就農や建設業の参入に活かされ、トマトジュース加工事業の安定に一役を担っている。味の良さが口コミで広がり、現在20万リットル以上を製造している。

清里町は主要農産物のじゃがいもにこだわり、付加価値を高め観光に結び付ける特産品の開発に取り組み、全道の一村一品運動の先駆者であり、30年の歴史を経て「きよさと焼酎」ブランドを確立した。

下川町・清里町の農産加工事業は、自治体直営であるが、チームの上昇、下降に伴う消費の反動の中で経営の安定、専門技術を持つ人材育成、長期的な製造・販売計画、雇用・産業支援と事業収支の透明性を高める努力

力が求められる。



清里町焼酎醸造事業所にて

■オホーツクブランド認証制度

オホーツク圏の自治体・企業等の力を結集し、地域産業の総合的な振興と活力のある地域を目的に財団法人オホーツク地域振興機構を設立した。オホーツク製品の良さを消費者に理解してもらうために、加工食品を第三者機関が認証する「オホーツクブランド認証制度」を創設し、マーケティングリサーチの要素を取り入れた認証審査により現在48商品が認証され販売増大の実績を残している。商品は納得できる品質が伴って初めて支持されるものであり認証制度の必要性を実感した。

議会改革特別委員会

地方分権の推進に伴い、事務権限が地方に移譲され、自治体は主体性・自主性が求められる。同時に二元代表制の議会充実強化が求められてきました。

今日まで、富良野市議会改革のあらゆる取り組みの根底は、議会と住民との関係に帰着し、議会と住民との信頼関係の構築による議会への住民参加をどう実現するかという課題に向かい、「開かれた議会・討論する議会・衆知を集める議会・行動する議会」に照らし合わせて行ってきました。

第4次議会改革の検討課題である、インターネットによるライブ中継についての取り組みは、ユーストリームを利用した他市の本会議中継ビデオを議員全員で鑑賞し、さらに配信費用見積もりなどを取り寄せた上で配信にあたり議会の管理体制のあり方、一般質問・質疑の強化について検討を行ってきたところです。

今後、配信体制管理、管理責

任の明確化、配信手法、加えて費用対効果など、詳細の検討を行い、インターネットによる中継実施に向け準備体制を整えていきたいと思えます。

さらに、現在行っている議会報告会における意見交換によって要望・意見を感じし、自由討議、一般質問、各委員会での議論に反映していますが、より幅広く住民の声を聞く機会を設け多様な意見を聴取し、諸課題の対応と政策提案の拡大を図ることを目的に一般会議の導入も決定しました。これは団体・個人グループから希望がある場合や時によつては市政上、議会上の課題について議会側からも働きかけることができる会議で、今後具体的な運用について要綱を整理していきます。

以上、議会改革特別委員会の中間報告といたします。

